

採択大学等名 **長崎大学**

連携市町村 **川内村、富岡町、大熊町、双葉町**

(共同申請校: 福島県立医科大学、福島大学、東日本国際大学)

取組概要(目的)

長崎大学が復興推進拠点を設置している川内村、富岡町、大熊町及び双葉町において、福島県立医科大学や福島大学、東日本国際大学といった福島県下の大学、さらに国際放射線防護委員会 (ICRP) や国際原子力機関 (IAEA)、経済協力開発機構 (OECD) といった国際機関と連携して**世界中の災害・被ばく医療科学の専門家を育成する「復興知を学ぶ」知の交流拠点を浜通りに構築する。**

「人材育成目標」

1. 災害・被ばく医療科学分野の正しい知識を持った上で、福島の復興、発展を主導できる人材を育成する。
2. 浜通りにおいて災害・被ばく医療科学の実践を学び、国内において本分野を担う人材を育成する。
3. 浜通りにおいて災害・被ばく医療科学の実践を学び、グローバルに本分野を担う人材を育成する。

連携体制と対象市町村



取り組みと成果

1. 川内村・富岡町・大熊町・双葉町復興推進拠点の充実と報告会の開催

- 各自治体の復興フェーズに沿った環境放射能評価、放射線リスクコミュニケーション支援
- 「**住民と行政、専門家が一体となった原子力災害からの復興モデル**」の実践
- 大熊町、双葉町役場内に教職員が常駐

◆長崎大学復興推進拠点活動報告会

2023年度の活動報告会では、大熊町の町長、教育長、商工会長とともに、大熊町の復興における課題と展望、大学に期待することに関する座談会を実施した。



拠点報告会 (2023)

2. 福島県の将来を担うリーダー育成

◆夏季国内集中セミナー、[福島大学] 環境放射能学セミナー、[東日本国際大学] 復興学連続セミナー等

災害・被ばく医療に関する基礎知識を学び、震災後の経験や教訓について住民や有識者を交え、意見交換する機会を持つことで、原子力災害からの復興の実際について学ぶセミナーを開催している。



夏季国内集中セミナー
住民との意見交換

3. 日本国内の人材育成

◆原子力災害復興学セミナー、長崎大学浜通り研修、[福島県立医科大学] 福島災害医療セミナー等

原子力災害への備えや廃炉・処理水について学ぶことを目的に、学生や国内の原発立地周辺自治体職員等を対象としたセミナーを開催した。2023年度は会津大学と連携して分科会を共催し、南相馬市の生徒の参加を得た。



原子力災害復興学セミナー
南相馬市共創分科会

4. 福島県浜通りにおけるグローバル人材の育成

◆災害・被ばく医療科学国際セミナー (International Advanced Training Course)、救急医学セミナー等

長崎大学修士大学院生を対象に、ICRPやOECD/NEAといった国際機関、海外の大学や研究所の専門家を招聘してトレーニングコースを開催した。



International Advanced Training Course (2023)

表1. 2021年度から2023年度におけるセミナー等参加者数 (延べ)

	2021年度		2022年度		2023年度	
	現地	オンライン	現地	オンライン	現地	オンライン
参加人数 (人)	429	638	1,177	420	1,068	541
合計 (人)	1,067		1,597		1,609	

今後の見通し

1. 福島県浜通りにおける交流人口の増加

本事業を継続し、浜通り地域を「災害・被ばく医療科学」の人材育成の場とすることにより、交流人口の拡大に貢献する。

2. 福島県の将来を担う世代における「災害・被ばく医療科学」の涵養

学生のみならず、行政職員や学校・教育分野、産業分野等に対する研修、知識の提供を継続する。

3. 浜通りにおける「グローバル人材育成システム」の確立

復興推進拠点を中心とした「災害・被ばく医療科学リエゾンオフィス」を設置し、研修体制をマネジメントしながら、グローバル人材を育成する体制を確立する。

